

婦人と子ども

第十三卷 第八號

幼稚園の問題に關して日田權一君に答ふ

東京女子高等師範學校教授 槇 山 榮 次

先達フレール會の總會があつたとき余は同會の依頼に應じ幼稚園に關する平素の所感を述べたのであつた。其の演説の概要は會員某氏の筆記に依て本誌上に公表せられた。日田權一君は余の意見を委はしく閱讀せられて本誌第七號に極て鄭重なる而かも苦味を帯べる言辭を以て之に對する所感を述べられ且つそれに對する余の答辭を要求せられてをる。余は此頃職務上に變化を生じたため非常に多忙を極てをるから言辭を練つて叮嚀なるお答をすることは出来ないけれども、折角の御要求でもあり且つ本誌上に公開せられて他の諸君に

も讀まるゝことであるから、余の所説を貫徹するに必要だけのことを辯解しようと思ふ。或は云ふ所粗雑であり無作法であつて禮を失することがあるかも知れないが、右に述べた次第であるから御當人の日田君に對しては勿論他の諸君に對しても言辭の末に介意せられざるやう豫め願つておく

一、幼稚園の振はざる主要の原因

幼稚園の振はざる主要の原因が何であるかと云ふことは君が余に問はんとする主要點でないことであるけれども、併し是は余の演説の要點とする所であり且つ君の云はれてをる所では余の旨

趣が十分徹つてをらないやうにも思はれるから、先方で御入用で無いからと云うて此問題を棄子にして置く譯には行かない。余は幼稚園の振はざる主要の原因を教育行政の局に當て居る人々が之を以て市町村の施設上必要缺くべからざるものと認めてをることの少いたためである、さうして其少いのは國家教育の施設として將た市町村の施設として幼稚園の必要なる所以が明かにせられてをらぬからであるとしたのである。幼稚園の振ふと云ふことはつまり幼稚園の多く設けられて之に入園する幼児も亦多いことであらう。さう成るには子供の親が其必要を認めて入園を希望する者の多く成ると云ふことも固より必要であらうが、教育當事者が幼稚園の必要を感じて鼓舞し獎勵し經營することが殊に必要であると思ふ。實業教育に熱心な人が文部大臣と成り縣知事と成り郡長と成り村長と成り其他施政に關與すべき有力者と成るときには自然に實業教育の振起することは争ふべからざ

る事實である。幼稚園は固より一個人の經營としても設け得るのであるが、施政の當事者又は之に關係ある人々をして十分に其必要を感せしむるでなければ、少くとも我國の現状では之をして十分なる發達を爲さしむることが困難であると思ふ。當事者の幼稚園の施設に餘り熱心でないといふことには色々原因もあらうけれども余の見るところでは今日の幼稚園教育は小學校の教育のやうに國家の施設として又は町村の施設として當然爲さねばならぬものと認めらるべき性質を缺いてをるからであると思ふ。幼稚園と云ふものが本來斯様な性質を具ふべきものでなく、國民教育と云ふことには少しも接觸しないで宜いものならばそれきりのことであるが、自分は左様に考へて居らぬから此説を爲すのである。日田君は「假にお説の如く幼稚園は共同精神を涵養する所にして國民上必要缺くべからざる者であると積極的に其價值を鼓吹して見た所で之を聞いて幼稚園に押しかけて來る程進

んで居るのであらうか」と云はれてをるが余は共
同精神を涵養することの必要を説いて幼児を有つ
て居る親達に其子の入園を勸誘せよと主張した譯
では無い。又「幼稚園不振の理由はもつと根本的
に我國一般の社會生活上の状態が子供を幼稚園に
托せなければならぬ程必要に迫られて居ないでは
あるまいか云々」と述べてをらるゝけれども是は
托兒所即ち Kinderbewahranstalt と幼稚園とを混
じて考へて居らるゝではあるまいか。托兒所と幼
稚園とは互に相類してをるから時には纏めて幼稚
園と稱せらるゝこともあるが、其旨趣は頗異なつ
てをると思ふ。

二、幼稚園は上手にお守をするに

過ぎざる場所ではない

幼稚園教育をして國家が施設し將た自治團體が
施設すべき當然の仕事であるとする以上は之をし
て國民教育の一部分たらしむべき要素を具へしめ
なければならぬ。兒童現在の生活を完成せしむ

ると云ふ日田君の提案は自分にはちと腑に落ち兼
ねるのであるが、其生れ得たる天真爛漫の性質を
發展せしむるを以て直接目的とすべしと云ふの
であらうが。若し然りとせばエレン、ケーなどの主
張してをる自由教育説と其類を同じうするもので
或眞理を含んでをると同時に又或危険を伴ふもの
であると思ふ。併し是は君の間はるゝ點でないか
ら深入りすることを止めて、君の間はるゝ點に就
てのみ答へようと思ふ。余は幼稚園の教育を以て
上手にお守りをするればそれで宜いとするものでな
い。即ち幼兒の性情に應じて看護をしてをればそ
れで宜いとするものではない。幼稚園教育者の頭
腦には幼兒現在の生活に就てばかりでなく其將來
到達すべき生活の要點に就いても明確なる考へが
造られてをらねばならぬと信じてをる。現在の生
活に注意するのみならば氣のきいた子守をする
大差ないことゝ成るのである。將來到達すべき生
活の要點と云へば申すまでもなく國民としての生

活である。其國民生活に對する基礎としては幼稚園などの幼兒には固よりさう六敷いことを教ふる譯には行かないから從來とても行はれてを一つて而かも其精神の十分に煥發せられざる共同作業或は共同活動を盛んにせよと主張するのである。日田君は「社交性を發達せしむるの目的は兒童の現在の要求を満足せしめんが爲にするのが主であつてお説の如く彼等が將來國民としての要求から來るのではない。それは自然の結果であると思ふ」と述べてをられるが、是は余と全く其見解を異にしてをる點である。愚見にては共同心を養ふことが國民教育上重要なことであるとすればそれは自然の結果であるなど、濟まして居ることではなからうと思ふ。斯様な考へを以て幼稚園教育をしてをらるゝから教育施政者が幼稚園に重きを置かないやうに成るではあるまいかと疑つた次第である。余が共同精神と云ふたのは日田君の耳には餘程六か敷誓いたやうに思はれるが、つまる所一緒に事

を爲すの習慣を造ると云ふことで何もさう八釜敷云ひ立てる譯では無い。至つて簡單なことである。至つて簡單なことではあるが國民教育の上に大切であると云ふことはケルシエンスタインの書いた「國民教育の概念」作業學校の概念等を見れば痛快に論じてある。幼稚園こそ共同精神を煥發するに反て適してをると云うたに就て怪まれたのは無理からぬとであるが、一體學校の教授は個々別の仕事を一一定の規律の下に並行して爲さしむるものであるから一の仕事を共力して爲すと云ふことに成らない。一定の規律に服すると云ふことは固より共同精神を養ふ所以に成らないと云ふ譯では無い。併しながら共同精神を養ふ上に大切なる共同製作或は共同作業と云ふことは學校生活よりも自由の形式を採てをる幼稚園の生活が寧ろ適してをると云うたまでのことである。「自分の小學校や幼稚園に於ける事實を否定することが出來ない様に思ふ」と云ふ證明的の反駁であるけれども、

余は外形的に規律を整へられたのを以て共同心のよく養はれたものとはしない。小學校及び幼稚園の仕事の性質上より推定して斯くあるべき筈のものと云うたまでのことである。それであるから君

の管理してをらる、小學校や幼稚園の現在の事實がさうであるからと云うての余の論を打消す譯には行くまいと思ふ。(未了)

觸覺筋覺關節覺を其根底とせる圖畫

教授の實驗的研究

神戸幼稚園長 望 月 くに

序 言

幼稚園に於て視覺筋覺等の、發達を促進せしめんが爲めに園兒に隨意畫を畫かしむる事は、今日一般に行はるゝ保育上の一仕事なり。之れ教育者が園兒の表出本能を巧に利用する一例にして、此遊嬉的作業が幼兒心身の發達に好影響を與ふる事は吾人の想像以上なり。今後もこの教授は一層深く研究せられ一層有功に行はれざる可からず。

然るに斯界の現状を見れば此貴重なる教育手段が深き考慮と周到なる注意とに依らず、單に傳習的に使用せらるゝは甚だ惜むべき事なり。殊に此作業は主として眼と手の練習發達を目的とすれども現今の有様にては眼の練習は比較的系統的に行はれ居るも、手即ち筋覺竝に關節覺の練習は只自然に放任せらるゝのみにして、園兒の偶然的任意的練習に任せらるゝ事は少しく考慮を廻し自己の爲せることを觀察する時は直に氣付き得らるゝな